

障害者福祉論

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------------------|---------|------|
| | | | 単位数 | 履修方法 | 配当学年 |
| | | | 4単位 | R or SR | 1年以上 |
| 科目コード | CD2118 | 担当教員 | 関川 伸哉(上)／横山 英史(下) | | |



※会場によりスクリーニングを別教員（小佐々典靖先生・齋藤征人先生）が担当いたします。

■科目の内容

本科目では、障害者福祉の基礎知識や、その背景にある理念や概念を理解することにより、障害者への福祉的援助を行う際の基本的な考え方や基盤を築くことを学習のねらいとしています。障害者福祉とはどのようなものなのかということを理解するために、まず、障害者理解のための基本的知識や考え方を学習します。そして、障害者福祉施策の展開とその特徴について概観し、実際に福祉援助を行う上で必要な知識と方法について習得します。

■到達目標

- 1) 障害者福祉の理念と障害の概念について説明することができる。
- 2) 障害当事者を取り巻く現状や、これまでの歴史を踏まえ、当事者が抱える問題への認識を深めつつそれらを説明できる。
- 3) 障害者福祉制度、関連施策への理解を深め、当事者が抱える問題の軽減、解決に向けた取り組みについて説明できる。
- 4) 何が「障害」かということに関して、身近な体験や様々な事例を通じ、自分の言葉で伝えることができる。

■教科書

- 1) 『社会福祉士シリーズ14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度（第3版）』弘文堂、2015年
- 2) 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度（第5版）』中央法規出版、2015年（第5版でなくても可）

（最近の教科書変更時期） 2015年4月

※昨年度までの履修登録者は教科書2)のみが配本されていますが、レポート課題に取り組む際は「アドバイス」にそっておまとめください。

■在宅学習15のポイント

学習内容：1～10回は教科書1)、11～15回は教科書2)を使用してください。ただし、昨年度までの履修登録者は、教科書2)に記載のない内容については、ご自身で教科書1)や他の参考図書・資料で学習をお進めください。

| 回数 | テーマ | 学習内容 | 学びのポイント |
|----|-------------------------------------|---|--|
| 1 | 障害の概念と理念 ① (第1章) | 障害、障害のある人をどのようにとらえるのか、その国際的な捉え方、国内の法制度の内容について理解する。 | 一般的な障害の概念を踏まえ、WHOの国際障害分類(ICIDH)、国際生活機能分類(ICF)への改正の要点について理解し、説明できるようにしましょう。また、福祉関係諸法における障害の定義についても確認してください。 |
| 2 | 障害の概念と理念 ② (第1章) | 基本的人権とそれに対立する思想を踏まえ、ノーマライゼーション、リハビリテーション、自立生活、エンパワメント、バリアフリー、ユニバーサルデザインの捉え方について理解する。 | ノーマライゼーションを中心とした諸理念がいかに形成されてきたかについて理解し、どのように具現化を図っていくのか考えてみてください。 |
| 3 | 障害者の生活実態とニーズ (第2章) | 主に統計資料から身体障害、知的障害、発達障害、精神障害、難病(児)者の動向、生活実態・ニーズについて学ぶ。また手帳制度や施策の概要について理解する。 | 統計的な実態や、手帳制度の概要、当事者の生活ニーズについて理解しましょう。また、その動向や、どのような要因が現状に影響を与えているのかについても考えてみてください。 |
| 4 | 国連・障害者の権利条約と障害者権利保障の歴史 (第3章) | 国連を中心とした権利保障の発展過程について確認し、2006年に採択された障害者権利条約について理解する。また、戦前も含めた障害者福祉の展開について学び、現在の障害者総合支援法、障害者差別解消法制定までの経緯、課題について理解する。 | 国内の各法律における障害の定義について確認し、現在の障害者総合支援制度が制定されるまでの経緯について説明できるようにしましょう。その上で、現在の制度が抱える問題点についてもまとめてみてください。 |
| 5 | 障害者福祉の法 (第4章) | 障害者福祉に関連する法律の目的や、その意義、各法律の対象、法的定義について把握する。また、その実施体制を踏まえ、援助の在り方について理解する。 | 障害者基本法を中心に、対象者ごとの身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、発達障害者支援法、児童福祉法についてその概要について理解しましょう。合わせて医療観察法や障害者虐待防止法、障害者差別解消法などの概要、課題についても整理してください。 |
| 6 | 障害者の福祉サービス(障害者総合支援法と障害者支援) (第5章) | 障害者自立支援法の成立とその問題点、障害者総合支援法の制定に至る経緯について確認し、障害者総合支援法の概要について理解する。 | 障害者支援の法制度は、近年様々な変更がなされています。現在の制度、サービスへの理解と合わせて、その問題点、求められるサービス像についても考えてみてください。 |
| 7 | 障害者の福祉と労働 (第6章) | 障害者にとっての働く意味を理解し、障害者雇用の実態を把握する。また、障害者雇用を支える制度について確認する。 | 障害者雇用においては、長い間、就労機会の制約、賃金(工賃)の低さが指摘されてきました。その対応が福祉分野と労働分野に二分されているという問題もあり、統一的な保障をいかに図っていくか、考えてみてください。 |

| 回数 | テーマ | 学習内容 | 学びのポイント |
|----|---|---|--|
| 8 | 障害者の所得保障 (第7章) | 低所得世帯が多数を占める障害者世帯においては、所得保障制度の充実、経済的負担の軽減が欠かせない。生活の基盤を支える制度の現状、問題などについて理解を深める。 | 所得保障の制度で中心となる障害基礎年金などの公的年金を始め、特別児童扶養手当などの社会手当、生活保護制度は、生活を支えていく上で重要な役割を果たしています。これらの制度を実際の支援において適切に活用できるようにしましょう。 |
| 9 | 障害者の社会生活参加 (第8章) | 障害者の社会参加の意義を明らかにし、その妨げとなる制度上の参加制限、偏見や差別、市民の理解不足について学び、それらをいかに解消していくか考察する。また、その具体的な取り組みであるバリアフリー、ユニバーサルデザインについて理解する。 | 障害当事者の社会参加を妨げるものには様々なものがあります。教科書の内容を踏まえ、身近な生活の中で生じるバリア、支障をいかに解消していくか、考えてみてください。 |
| 10 | 障害児の福祉サービス (第9章) | 障害児の固有な権利、子ども期という年齢や発達の状況に即した支援に意義について理解する。その上で、児童福祉法、障害者総合支援法に基づく福祉サービス、学校教育における取り組みについて確認する。 | 国際的な到達点である児童の権利条約、障害者権利条約の意義を踏まえ、障害児固有の福祉サービスの体系への理解を深めてください。 |
| 11 | 障害者に関わる法体系 (第2章) | 障害者基本法を始め、障害者にかかわる法律は福祉分野に限らず、保健・医療、年金・手当、雇用・労働など多岐にわたる。これらの法律の目的や、成立の背景、概要について理解する。 | 障害当事者の生活を支えていく上で、これらの法律は生活の様々な場面で関わりをもっています。制度への理解を通じ、実際の支援に活用してみてください。 |
| 12 | 組織・機関の役割 (第5章) | 障害者総合支援法の実施主体として位置づけられる市町村、都道府県、国、指定サービス事業者、労働機関、教育機関などの役割や業務について理解する。 | 自治体や国を始め、サービス事業者や労働機関、教育機関が果たす役割を理解し、連携やチームアプローチ、地域づくりを行う際に役立ててみてください。 |
| 13 | 専門職の役割と実際① 障害者にかかわる専門職の価値・倫理 (第6章第1節) | 専門職に求められる価値・倫理について理解を深め、求められる当事者との関係性について考える。 | 利用者にサービスを提供する際の利用者中心の考え方、多様性や個別性の尊重、受容など各分野に共通する価値と倫理に関して、今後の実践の基盤となる考え方を形成してください。 |
| 14 | 専門職の役割と実際② (第6章第2節～第6節) | 障害者総合支援法に位置づけられている相談支援専門員、サービス管理責任者、生活支援専門員の役割とサービス提供の状況について理解する。 | それぞれの職種の位置づけと役割、実際のサービスを提供する際に必要とされる方法や技術を踏まえ、実際の支援に活用してみてください。 |
| 15 | 多職種連携・ネットワークワーキング (第7章) | 多職種連携・ネットワークワーキングの意義を踏まえ、その中核をなす協議会の運営と活用法について理解を深める。 | 地域生活への移行を始め、様々な場面で医療・教育・労働機関との連携はより重要になってきています。その中で中心的な役割を果たす協議会の目的、役割について確認し、効果的な連携、ネットワークワーキングの形成ができるようにしましょう。 |

■レポート課題

※3単位めのB課題を除いて、各課題1,800字以上記入してください。

| | |
|-------|---|
| 1 単位め | <p>次の課題のうち、いずれか一方を選んで答えなさい。</p> <p>A. ノーマライゼーションおよびリハビリテーションの理念についてまとめ、基本的な考え方について述べなさい。また、その実現のためにはどうしたらよいか、テキストにとりあげられている取り組みなどを参考に、あなたの考えを述べなさい。</p> <p>B. ソーシャルインクルージョン（社会的包摂化）を実現する上での課題をまとめ、どのような取り組みが求められるか、あなたの考えを述べなさい。</p> |
| 2 単位め | <p>次の課題のうち、いずれか一方を選んで答えなさい。</p> <p>A. WHOの国際障害分類（ICIDH）および国際生活機能分類（ICF）の概要についてまとめなさい。また、障害の構造的理解についての解釈や3つのレベルへのアプローチ、あるいは「障害をどのように理解するか」について述べなさい。</p> <p>B. 障害者虐待、差別（定義、背景）について説明し、どのような対策が必要となるか、あなたの考えを述べなさい。</p> |
| 3 単位め | <p>次の課題のうち、いずれか一方を選んで答えなさい。</p> <p>A. 障害者福祉施策の発展についてまとめ、現代社会における障害者福祉サービスの特徴や問題点について考察し、あなたの見解や考えを述べなさい。</p> <p>B. 【説明型レポート】 下記について各300字以上500字程度で簡潔に説明しなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 障害者に関わる法体系、サービスの概要について ② バリアフリーとユニバーサルデザインについて ③ 自立生活（Independent Living: IL）運動について ④ 協議会について <p>※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可</p> |
| 4 単位め | <p>障害者支援において重視すべき点についてまとめなさい。その上で、「自分らしい生活」の実現や自立支援について身近な体験や資料をもとに考察しなさい。</p> |

(平成27年度以前履修登録者) 2016年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2015』記載の課題でも2017年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

レポート作成の方法について一つの提案を示しますが、みなさんそれぞれに適した方法を自らみつけることができればそれがいちばん良いのですから、あくまでも参考としておいてください。また誰にでも、この角度やこの話題からなら書きやすいというポイントがあるのではないかと思います。そういうところを上手にみつけるのも良い方法でしょう。

- (1) まず、落ちついてレポート課題をよく読み、何について問うているのかについて明確に把握してください。そして、そのときすぐに自分の考えが浮かんできた方は、それをメモするなどして覚えておきましょう。何も浮かんでこないのであれば、そのまま次へ進みましょう。
- (2) 1種類のテキストだけでは、どうしても理解に偏りが生じてしまいがちですから、なるべく指定のテキストだけではなく、それ以外の資料も参考にしてください。決して難しい専門書でなくともかまいません。新聞、雑誌、テレビ番組、映画、小説、インターネット、その他興味を感じたものなら何でも接してみてください。そこで何か興味を感じるものがあれば、レポートの半分は書けたようなものです。高い動機づけによって、自分なりの見解や意見が出てきやすくなるでしょう。
- (3) 「まとめなさい」とされている部分に関しては、さまざまな資料を読み、あなたが重要だと思った

ところや要点を中心に整理してみましょう。要点というのはつまり、障害者福祉を学び、実際に障害者援助に関わるとした場合、これだけは覚えておきたいという最低限必要な知識のことです。また、現代社会における福祉のあり方を自分なりに考えるときにも、それらの知識や考え方は大いに役立ってくれることでしょう。

- (4) 「考えを述べなさい」「考察しなさい」とされている部分に関しては、これまでの経験やそれについて考えたこと、またはさまざまな興味深い資料などをもとにして、あなたの考えがきちんと伝わるように論述してください。

障害者福祉における基本理念や、障害者をめぐって生じる問題は、普遍的なものであることが少なくありません。人は、自分自身にもある程度関係があることなら自然に興味をもちますが、いわゆる「他人事」に関しては、なかなか興味をもつことは難しいのではないのでしょうか。ですから、無理なく興味をもち、学習を進めやすくするためにも、些細な経験や自分の問題についての自分の考え、社会で起こる事件・事故などについて、少し感度を上げてみてください。そのような身近な視点から、ふと気がつくことがあったり、考えさせられたりすることがあるのではないかと思います。

自分自身の興味関心のありかや、自分自身の経験、ものの考え方や価値観などについて普段から自己理解を深めておくことは、専門技術と知識を持って援助を行う際だけでなく、何かを学ぼうとするときにも有用であることが多いものです。

1 単位め アドバイス

ノーマライゼーション、リハビリテーション、ソーシャルインクルージョンは障害者観を考える基本理念となります。まず、テキストや資料を参考に、識者や機関による捉え方や変遷、具体的な取り組みについてまとめてください。その上で、あなた自身は理念をどう捉えるか、実現のため何が必要かについて述べてください。

評価ポイントは、第一に理念の概要と展開についてある程度体系的にまとめられているか、第二に理念について自分なりの考えが述べられているか、になります。

2 単位め アドバイス

A：まず、ICIDHの概要と3つのレベルの捉え方、ICFへの改正の要点についてまとめてください。その上で、「障害とは何か」「障害者とは何か」についての考えを障害の構造的な理解による具体例をあげて述べてください。余力のある方は現代社会との関連、主観的次元の障害（体験としての障害）の問題についても考えてみてください。

評価ポイントは、第一にICIDHおよびICFの概要とそれらが示す障害の捉え方を的確に理解しているか、第二に具体例や現代社会との関わりで、各々の次元へのアプローチや、「障害とは何か」「障害者とは何か」についての自分なりの考えが述べられているか、になります。

B：まず障害者虐待、差別について障害者虐待防止法（2011）、障害者差別解消法（2013）を参考に、その捉え方や取り組みについてテキストや資料を参考にまとめてください。その上で虐待や差別が生じる背景や、実際に起きた際に求められる対応について考えてみてください。

評価ポイントは第一に虐待や差別の捉え方や対応について理解がなされているか、第二に背景や要因への検討がなされ、自分なりの対応の仕方が述べられているか、になります。

3 単位め
アドバイス

障害者福祉施策に関しては、国外・国内それぞれにおいてさまざまな展開がみられます。社会の風潮や時代背景によって、障害や障害者の捉え方も違ってきます。まず、テキストやその他の資料を読み、障害者福祉施策の発展について、自分なりの視点からまとめてみてください。その上で、近年の国内の施策や、現在の障害者福祉サービスにおける特徴と問題点について考察してください。テレビや新聞、雑誌等身近なメディアなどに注意を向けたり、身近なできごとや実践での関わりなどを通して問題点が見えてくるのではないかと思います。

評価ポイントは、第一に、障害者福祉施策の発展および近年の施策についての要点が的確にまとめられているかという点、第二に、障害者福祉サービスの特徴や問題点に関しての自分なりの見解や考え方がきちんと述べられているかという点が中心となります。

【説明型レポート】に関しては、教科書やその他の資料を参考にまとめてください。ただし、使用した資料は参考文献としてすべて記載してください。評価ポイントは、各項目の要点を踏まえた説明がなされているか、あるいは、内容がきちんと理解されているかという点になります。

4 単位め
アドバイス

障害者支援において重視すべき点について、援助者に求められる価値観や倫理を中心に、これまで学んだ知識や経験を踏まえ、まとめてみてください。近年は障害者の自立が強調され、福祉サービス利用や生活場面で「自己選択・自己決定」がとり入れられています。それに関連して「自分らしく生活すること」の意義が問われていますが、それはどのようなことを意味しているのでしょうか。この問題は特に普遍性が高い問題ですから、あなた自身の考えや身近な例、資料をあげて説明してみてください。または、本当の意味での自立支援とはどうあるべきかについて述べてくださってもかまいません。本科目の総まとめとしてあなた自身の障害者福祉の捉え方を示してみてください。

■科目修了試験 評価基準

- 1) 設題の内容に適切に答えているか。
- 2) 適切な表現であるか — 文章として。誤字、脱字はないか —
— 定量の記述がなされているか — 当然、内容、文字の大きさは考慮しますが、大学の単位認定に関わることから概ねオモテ面全体、少なくともオモテ面最後の3行以上の記述をお願いします —。
- 3) 自身の見解、考察が示されているか。
教科書や資料をそのまま記述するのではなく、設題に対して自分の考察、見解を含めて答案を作成してください。

■参考図書

- 佐藤久夫・小澤温著『障害者福祉の世界（第4版補訂版）』有斐閣、2013年
 内閣府『障害者白書（平成28年版）』、2015年
 一番ヶ瀬康子・河東田博編『障害者と福祉文化』明石書店、2001年
 田中農夫男・池田勝昭・木村進・後藤守編著『障害者の心理と支援—教育・福祉・生活』福村出版、2001年

永渕正昭著『障害者のリハビリと福祉』東北大学出版会、2000年

小山内美智子著『あなたは私の手になれますか 心地よいケアを受けるために』中央法規出版、1997年

小山内美智子著『私の手になってくれたあなたへ』中央法規出版、2007年

小山内美智子著『わたし、生きるからね』岩波書店、2009年

定藤丈弘・岡本栄一・北野誠一編『自立生活の思想と展望—福祉のまちづくりと新しい地域福祉の創造を目指して』ミネルヴァ書房、1993年

小澤温編『よくわかる障害者福祉 [第5版]』ミネルヴァ書房、2013年

小澤温・大島巖編著『新・社会福祉士養成テキストブック12 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第2版』ミネルヴァ書房、2013年

文・後藤安彦／絵・貝原浩『フォー・ビギナーズ・シリーズ73 障害者』現代書館、1995年

渡辺一史著『こんな夜更けにバナナかよ 筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち』文春文庫、2013年

正村公宏著『ダウン症の子をもって』新潮文庫、2001年

浦河べてるの家著『べてるの家の「非」 援助論—そのままがいいと思えるための25章（シリーズ ケアをひらく）』医学書院、2002年

■履修上の注意

平成27年度以降入学者は、この科目を高等学校教諭一種免許状（福祉）取得に必要な「教科に関する科目」として使用することはできません。